

価値提供の思

中小企業の生存戦略

考

第11回 中小企業の戦い方

〇…中小企業が「何と後の変化の時代においてどこで戦うか」を考えた。は強みともいえる。意思は大手企業であり、決定の迅速性や柔軟性を武器にした「手を動かしな強みは「人員が少なながら考える」思考こそ「こと」である。一見すが、複数のスキルを持つと弱みにみえるが、今人材育成を行う環境に適し、収益の中核である固定顧客が多く、顧客ニーズに応える製品改良が優先され、新たな取り組みが後回しになるインベシ



三枝国際特許事務所

中小企業
診断士

柚木 正人氏

ながる。

本連載の中では、考え方の手本としてハイテクを武器にスタートアップする企業に着目した。確かに、リソースを豊富に持つ企業は資源の面で圧倒的に優位である。しかし「改革」を優先させ

改良や改善では見られない「勝てる場所」の構築へ在しないということ。妥協なく必要性は高い。本連載の中では、考え方の手本としてハイテクを武器にスタートアップする企業に着目した。確かに、リソースを豊富に持つ企業は資源の面で圧倒的に優位である。しかし「改革」を優先させ

妥協のないゴール

「価値提供の思考」を持つ

「人材多様性を持つ組織改革」を實現しやす

「人材多様性を持つ組織改革」を實現しやす

「人材多様性を持つ組織改革」を實現しやす

「人材多様性を持つ組織改革」を實現しやす

まず、改革は今の延長線上に存在し、

(連載「価値提供の思考」は4月13日より毎週月曜日に掲載しました)